

講義名	環境経済論				授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング

主題と概要
この授業は、経済学の枠組みに基づいた環境問題の捉え方を習得することを目的とします。 環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまですが、我々の経済活動に起因している点で共通しています。環境問題は学際的な問題であり、さまざまな分野の専門的知見が必要です。この授業では経済学の考え方を活用し、環境問題解決のためにどのような対処方法があるのかを検討します。さらに習得した事項を現実の問題に適用できるような応用力も養成したいと考えています。 ミクロ経済学の応用科目なので、論理的思考能力や抽象的思考能力（いずれも社会で必要とされる能力です）を向上させるためのトレーニングに適しています。

到達目標
各受講生が、 （１）環境問題と経済活動の関係について理解し、ミクロ経済学に基づく環境経済学の基礎的で重要な概念・枠組みを習得して、他者に説明できるようになること、 （２）環境問題発生メカニズムや環境税・排出量取引などの環境政策の経済的手段を、環境経済学の体系に基づいて理解し、その知見を応用してローカルな環境問題、グローバルな環境問題の改善案を提示できるようになること、 （３）現代社会の重要課題である持続可能な社会の構築に向けて、個人や企業が果たすべき役割を理解し、望ましい環境配慮行動のありかたを提案できるようになること、 を旨とします。

提出課題
中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準
中間レポート課題40％、期末レポート課題60％の比率で評価します。 授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を越えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他
この科目はミクロ経済学の応用科目です。履修にあたっては経済学入門とミクロ経済学を履修済みであることが望ましいです。 授業では、数学の図やグラフが登場します。授業では丁寧に説明しますが、若干座席のある受講生は数学（図やグラフの描き方、読み方）に関する復習が必要かもしれません。 各回の授業は、それまでの授業内容の理解を前提とした「積み上げ型」になります。したがって、コツコツと計画的・継続的に学習する習慣が身につけていないと授業について行けなくなる可能性があります（試験前の一夜漬け的な勉強だけでは単位修得は困難かもしれません）。授業は丁寧に進めていきますが、途中で流れを見失わないように、不明の点は積極的に質問するなどの姿勢と努力が求められます 関連する科目に「公共経済論」があります。並行して履修すると理解がより深まります。 授業中の私語は禁止です。他の意欲的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください（集中力を維持してください）。質問等で発言が必要な場合は举手の上で行ってください。 授業の復習にあたっては、授業内容をまとめる専用のノートを作成することを勧めます。労をいとわず自分の手で書くことによって、自分が理解できていること、理解できていないことが明確になってきます。

教科書					
・特定の教科書は使用しません。					
参考図書					
・環境経済学をつかむ（第4版）。	栗山浩一・馬宗木俊介	有斐閣	2,640	9784641177291	
・入門 環境経済学—環境問題解決へのアプローチ。	日引聡・村村俊秀	中公新書	858	9784121016485	

その他
担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料は RYUKA Portal 経由で毎回配布します。 授業の内容は、参考図書に記載した「環境経済学をつかむ（第4版）」の書籍がベースになる予定です。教科書ではありませんが、授業の予習・復習に有益ですので、入手することを推奨します。 その他の参考図書は授業中に適宜紹介します。

授業計画
第1回 イントロダクション： 授業の進め方、および環境問題と経済活動の関係について 第2回 私たちの生活と環境： 持続可能な発展について 第3回 環境問題発生メカニズム（１）： 外部性と市場の失敗 第4回 環境問題発生メカニズム（２）： 公共財とフリーライダー 第5回 環境問題発生メカニズム（３）： 共有資源の利用と管理 第6回 環境政策の基礎理論（１）： 直接規制と市場メカニズム 第7回 環境政策の基礎理論（２）： 環境税 第8回 環境政策の基礎理論（３）： 環境補助金 第9回 環境政策の基礎理論（４）： 直接交渉による解決 第10回 環境政策の基礎理論（５）： 排出量取引（１） 第11回 環境政策の基礎理論（６）： 排出量取引（２） 第12回 環境政策への応用（１）： 廃棄物政策 第13回 環境政策への応用（２）： 地球温暖化政策 第14回 国際貿易と環境 第15回 授業の補足と全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいください（その上で授業に臨むこと）。上述の参考図書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと、授業の理解度が高まります：約1.5時間/回。 授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習してわかなかった点は質問してください）。前述の参考図書やミクロ経済学の教科書を併せて読むことで理解度がさらに高まります：約2.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、経済学の枠組みを通して理解できるようになり、さらに、環境問題と経済活動の関係を踏まえて、サステナビリティに関する世の中の動向に関心を認め、持続可能な社会の構築に向けた分析ができるようになります。 これは、経済学部経済学科の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身につけ、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、世の中での動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
備考